

2023年9月26日(火)

老球の細道752号

## 実録「仁義なき腰痛との戦い」PART 2

会津バスケットボール協会 室井 富仁

「痛み」は、刺すような、チクチクする、ズキンズキンする、灼けつくようなといった具合に千差万別、多種多様である。また、痛みは形として捉えることができないので、どんな程度の痛みか他人は知る由もない。だから家族は、私の痛みは無頓着であった。

この世に生を受けて色々な痛みを経験してきたが、ロキソニン等の痛み止めが効くうちはいい。鎮痛剤などが全く効かなくなった時は問題である。今回の私の「脊柱管狭窄症」の歩行中の下肢の痛みはまさにそれであった。伝家の宝刀「ブロック注射」も先日行われた全日本女子バレーの「ブロック」のように効果はなかった。

病名が判明してから、同じ病気を保存療法と薬物療法で克服した弟の話聞いて、それでは私もと燃えた。17世紀のオランダの画家ウイレム・ファン・デ・フェルデ(子)が描いた荒波の中を進む『突風』とムンクの太陽が光り輝く『太陽』の2つの絵を部屋に飾り、これを毎日見ながらウォーキング、筋トレ、ストレッチに励んだ。しかし、若い頃の治癒力は、今の私には残っていなかった。このまま痛みとつき合いながら、前かがみで歩くことを良しとするか、多少のリスクは覚悟しても思い切って手術にふみ切るか。どうする家康、どうするファンタ爺。結局、今後の人生のQOL(生活の質向上)のために手術をチョイス!

とうとう入院の日の朝、孫が寝床に来て「ジイジがんばって」と励ましの言葉。勇気づけられたが人生初めての入院、全身麻酔による手術である。兵隊に行ったことはないが、赤紙が来て戦場に赴く心境になった。韓国の人気アイドルBTSの兵役義務も頭をよぎった。

前々日に松井先生からも励ましの電話をいただいた。相変わらずのプラス思考、前向き突進思考で「大丈夫だ。あっという間に終わるよ」。その言葉に励まされて、ストレス解消法「とらえ方を変える」を思い出して、今回の入院手術を長期間の遠征合宿、海外旅行と置き換えて人生初の冒険を楽しもうという気持ちになった。

午前10時、妻に付き添われ会津医療センターに行った。腰の治療では実績のある病院である。病院に行ったら受付で久しぶりの知人と出会い、私と同じ病気で入院手術を受けることを聞きびっくりした。年齢をとると、皆同じような病気になるものである。

受付が終了し、入院病棟へ案内された。手術前なので個室の検査室である。案内してくれた看護師さんは、昔近所に住んでいた知人(当時小学生)だった。昔話をしながら、とても親切に世話をいただいた。また、担当の薬剤師が葵高校時代の生徒で、これもまた親切に薬の調剤、説明をしてくれた。周囲に知人が多く存在し、不安がフアンになっていた。

午前に麻酔の説明、午後に歯の検査と治療、そして主治医から明日の手術の説明。その後入院、リハビリなどの説明で夕方までかかった。手術と翌日が大変だということを知り、改めてプレッシャー君が現れた。先行不安はどうでもいい。未体験を楽しんでチャレンジしようという決意。バスケット同じ、「ようこそプレッシャー君、君がいないと楽しめないよ」〈続〉